

たに  
ぜ  
谷瀬

谷瀬は十津川村北部の中野村区にあります。十津川を挟んで対岸の大字上野地から右岸の谷瀬に向かって架けられているのが有名な「谷瀬の吊り橋」です。全長 297 ㍎、高さ 54 ㍎の吊り橋は足がすくんでしましますが、年間 30 万人が訪れる有数の観光資源になっています。



盆踊りは 8 月 13 日に公民館（公会堂）で実施されます。

十津川の盆踊りは中野村区を中心とする北部の様式と、三村区、西川区など南部の様式の二つに分かれますが、谷瀬は北部の伝統を残しています。

大踊はありませんが、篠原（大塔）から嫁いできた女性が明治の末頃に伝えた扇踊りが、今日まで「雪原」「哀れ龍田」「白糸」「花買うて」として伝承されています。他に「長崎」がありましたが、今は踊られていません。これら 5 曲は、現行の篠原踊りでもほぼ同じ形で存在しています。

扇踊り以外の踊りを「手踊り」といいます。約 10 種類余りあります。谷瀬の場合、手踊りは篠原から伝わった扇踊り以外の踊りを指す総称となっています。扇を持っていても手踊りと言うのです。十津川南部の地区では「大踊」と「ばか踊り」に分類されているのと似通って、「扇踊り」と「手踊り」という分類になっています。手踊りの振りは中野村区の住民の創意で作られたと推測されますが、扇踊りの影響が強く感じられます。

谷瀬の「追分」「五條」という曲目は、西川区にも「追分」や「五條や橋本」という形で存在しています。踊りの所作や扇の扱いは全く異なりますが、興味深いのは歌の旋律です。歌詞も全く違うので、少し聞いただけでは分かりにくいのですが、よく聴くと基本の旋律線をたどれます。この曲が昭和初期までに両地域に入ったと仮定すると、およそ 100 年の間に徐々にそれぞれが変化していったのです。民謡の地域的変容を考える上で貴重な証拠になるのではないかと思います。（中川）



谷瀬

撮影：中川眞



谷瀬

撮影：田花三蔵



谷瀬

撮影：佐古金一